

ピロリ菌の除菌の成功率

事務 石山友美

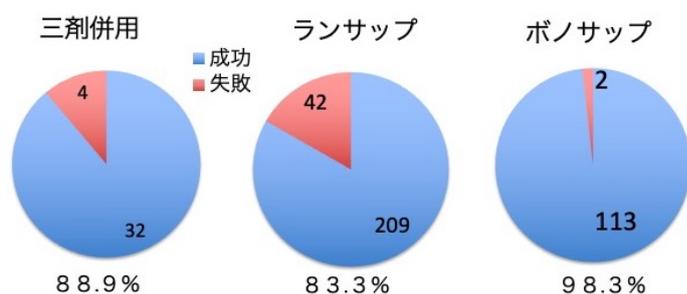
ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）は、胃の粘膜に感染し慢性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃癌などを引き起こす原因の一つとなっています。ピロリ菌の除菌方法は、制酸剤と抗生物質2種類を1週間服用してもらいます。以前は3種類の薬を別々に処方していましたが、1日分を1シートにしたランサップやボノサップが発売になり、服用しやすくなりました。また、2013年1月までは胃潰瘍や十二指腸潰瘍の患者さんにしか除菌は認められておらず、除菌できる人は限られていましたが、2013年2月から慢性胃炎でも除菌が保険適用になったため、除菌対象者が一気に増えました。当院でピロリ菌の除菌を行った患者さんの除菌の成績を調べてみました。



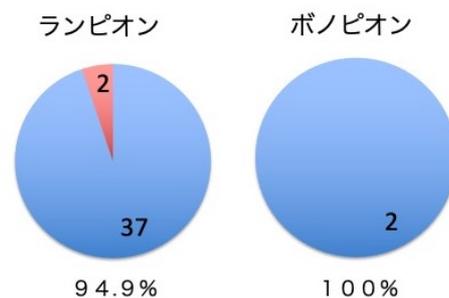
2007年1月から2018年12月までに除菌薬を服用した430名のうち、除菌後の判定検査を行った患者さんの除菌成功率を薬剤ごとにみると、三剤併用療法で88.9%、ランサップで83.3%、ボノサップで98.3%でした。ボノサップにはタケキャブという制酸剤が使用されており、最も除菌成功率が高いという結果でした。現在当院では、除菌する患者さんには全例ボノサップを使用しています。

1回目の除菌が成功しなかった場合は、投与する抗生物質を変えて2回目の除菌を行います。ランピオンとボノピオンという薬があり、成功率をみるとランピオンが94.9%、ボノピオンが100%で、ほとんどの患者さんが除菌に成功していました。

各薬剤の除菌成功率



二次除菌の成功率



1週間薬を服用することで、ピロリ菌は大部分の患者さんで除菌ができます。副作用としては抗生物質による下痢がありますが、10人に1人程度で多くはありません。除菌により胃癌になる危険性を下げることができますので、ピロリ菌がいると判定された方はぜひ除菌しましょう。

